

【執筆者略歴】

新井 ゆい（あらい・ゆい）

一九九三年、習志野市生まれ。二〇一七年三月、学習院大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士前期課程修了。同年四月より後期課程に進学し、琳派を中心とした日本近世絵画・工芸史を研究。

千葉 遥美（ちば・はるみ）

一九九四年、岩手県奥州市生まれ。二〇一九年三月、東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻東洋・日本美術史専修博士課程前期二年修了。二〇一九年四月より諏訪市原田泰治美術館に学芸員として勤務。

杉本 欣久（すぎもと・よしひさ）

一九七三年、京都市生まれ。一九九八年三月、早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻修士課程修了。同年四月より、黒川古文化研究所に勤務。二〇〇九年三月、早稲田大学にて博士（文学）の学位を取得。二〇一八年四月より、東北大学大学院文学研究科の准教授として日本近世絵画史を研究。

【編集後記】

本号から論文投稿の受付を開始した。ほとんど告知していなかったこともあり、最悪、編集責任者のみの掲載をも考えたが、ありがたいことにほとんど面識のない大学院生から数編の応募があった。結果として二編を採択することとなり、このようなスタンドアローンの雑誌にも、改めて需要があると認識させていただいた次第である。

これまで何度か『美術史』の投稿論文に関する査読を担当し、また「論文賞」の審査にも関わらせていただいたが、そこで感じたのは、おそらく有意義な内容を備えているにもかかわらず、文章力が未熟であるゆえに読者の理解を得ず、「掲載不可」となった例も多いのではないかとのことである。日本人として生まれ、作文や小論文の教育を受けて大学を卒業していれば、当たり前のように日本語の文章を書けると自認する人も多いと思われるが、事実はむしろ逆であろう。本来、第三者を意識し、読みやすさを工夫した推敲の積み重ねなしには、自身の主張を理解してもらうことは難しい。それを我々のような教員が大学において指導すべきであるが、ひとりひとり手取り足取り教育するのは、カリキュラムの構成や時間の都合上ほとんど不可能である。それゆえ、せめて本誌に投稿された論文については、なるべく掲載に合うよう、文章を指導することも自分に課せられた大きな仕事のひとつと考えるに至った。そのような機会など世間にそれほどあるとは思えないことから、結果として「掲載不可」になったとしても、若い研究者には厭わずにチャレンジしてもらえれば幸いである。

（杉本）

日本近世美術研究 第二号

和令元年（二〇一九）十二月二十五日

発行 一般財団法人北島古美術研究所

京都市上京区石薬師町六八九―八

編集責任 東北大学大学院文学研究科

准教授 杉本欣久

〒九八〇―八五七六 仙台市青葉区川内二七―一

電話 〇二二―七九五―六〇六八（直通）

印刷 株式会社東誠社

仙台市宮城野区岡田西町一―五五 仙台総合印刷団地

電話 〇二二―二八七―三三五―